

武蔵野市第3期健康福祉総合計画・地域福祉計画策定委員会（第4回）議事要旨

日時	平成30年1月31日（水）午後6時30分から7時20分まで
場所	武蔵野総合体育館3階大会議室
出席委員 (敬称略)	市川一宏、狩野信夫、酒井陽子、栖雲勅子、田原順雄、堀口裕恒、村雲祐一、矢島和美、山井理恵、渡邊大輔（欠席：岩本操、北島勉）
事務局	健康福祉部長、地域支援課長、生活福祉課長、高齢者支援課長、相談支援担当課長、障害者福祉課長、健康課長 他

1 開会（略）

2 配付資料の確認（略）

3 議事

(1) 市民意見交換会及びパブリックコメントの結果について

(2) 答申（案）について

資料1「市民意見交換会（計画策定委員との意見交換）及びパブリックコメントの結果」、資料2「パブリックコメントに対する策定委員会の取扱方針（案）」、資料3「武蔵野市第3期健康福祉総合計画・第5期地域福祉計画 答申（案）」及び資料5「武蔵野市第3期健康福祉総合計画・第5期地域福祉計画 答申（案）中間のまとめ以降の主な修正箇所（新旧対照表）」により事務局が説明

【委員】 資料3、13頁の図表1-2-1の平成29年の高齢者人口が32,052人で22.1%と記載されているが、12頁の人口推移の説明には、「65歳以上の高齢者人口は、平成29年には31,950人で、高齢化率も21.9%となりました」と記載されている。

【事務局】 12頁の説明は、中間のまとめに記載した推計値であった。答申案では実績値が出たため、13頁の図表1-2-1の「人口の推移と将来の見通し」が正しい。説明文を修正する。

【副委員長】 2点確認したい。

1点目、パブリックコメントや市民意見交換会でのご意見にもあったが、コミュニティや子どもプランとこの計画との関係は重要な指摘であると思う。今後、調整が必要と思われるが、武蔵野市のケア全体を考えるうえでは重要な論点である。

2点目は資料3、54頁の「地域包括ケア推進人材育成センター（仮称）」についての記載である。ボランティアに関しては、武蔵野市民社会福祉協議会のボランティアセンター等があるので役割分担をして整合性を図ったということだが、「国や都における人材育成事業と同じように、例えばシルバー人材センターやボランティアセンターでも人材育成をしている」といったような自治体内の部署等の連携についての記載を加えたらどうか。

【事務局】 コミュニティについては、特に第5期地域福祉計画に対して多くのご意見をいただいて

いる。可能な限り整合性を図りたい。

「地域包括ケア推進人材育成センター（仮称）」は、もう少し短い名称への変更を検討している。副委員長ご指摘のように、市民社会福祉協議会の中でもボランティアセンターとの棲み分けが課題となっているため、市民社会福祉協議会のボランティアセンターやシルバー人材センターとの役割分担や連携について協議する趣旨の文章を追記したい。

【委員長】 武蔵野市にはこれまでに蓄積した市民活動推進の歴史がある。新事業として展開する地域包括ケア推進人材育成センター（仮称）については、計画策定後じっくりと議論していただきたい。

他にご意見があれば、事務局と調整のうえ委員長がとりまとめるので、事務局にご連絡いただきたい。今後については、委員長一任でよろしいか。

（委員了承）。

4 その他（今後のスケジュールについて等）

資料4「第3期健康福祉総合計画・第5期地域福祉計画策定に係る今後のスケジュール」により事務局が説明

【委員長】 この委員会は今回が最後となるため、各委員から一言ずつご挨拶いただきたい。

【副委員長】 半年間に渡り計画策定に関わり、大変勉強になった。武蔵野市の健康福祉分野における本当に重要なことを検討したと実感している。計画は策定して終わりではない。今後はこの計画が円滑に推進できるように見守り、必要があれば武蔵野市の福祉に関わっていききたい。

【委員】 この計画の策定委員会を通してとても勉強になった。赤十字奉仕団の代表としては、地域福祉計画に共同募金事業のあり方について記載していただいたことについて嬉しく思っている。

【委員】 健康福祉総合計画は、高齢者を含め市民の希望に沿う内容であるべきと考えている。今回の策定では人材が大きなテーマとなったが、ボランティアセンター武蔵野運営委員長としては、市民の無償の努力に頼ってしまう感じが否めない。地域福祉計画でそのあたりを明確に棲み分けるようにしていただきたい。また、シニア支え合いポイント制度はこれから育っていくものと思っているので見守っていききたい。

【委員】 パブリックコメントを見て、人材育成の意見が多かったことについては時代を象徴しているものと感じた。人材育成を考えるには単に福祉人材、介護人材、看護人材というように個別の分野としての視点だけではなく、市民全体で支える仕組みをどのように構築するかが重要であろう。

【委員】 高齢者福祉計画・介護保険事業計画の立場から意見することが多かったが、健康福祉総合計画では障害者福祉や子育てに関しても統合的に取り扱っていくことが重要である。計画策定後の円滑な推進に期待する。

【委員】 パブリックコメントを見て気づいたが、市民から「内容が難しくてよくわからない」という意見があった。計画は冊子だけではなく、職員が地域に出向いて直接説明していただ

ければ、より市民に理解していただけたらと思う。検討していただきたい。

【委員】 一般公募で参画させていただき、何も知らない状況から勉強させていただいた。人材を探すことは本当に大変だと思うが、よりよい地域づくりのために市職員の方々にはがんばっていただきたい。

【委員】 福祉の会からの選出でこの策定委員会に参加させていただいた。地域福祉の最前線にいて感じるのだが、担い手の確保は本当に大きな問題である。数年前から、仕事とボランティアの関係が大きく変化しており、また変化のスピードがとても早い。今後は定年が延長されて65歳、さらには70歳まで現役で働く人が出てくるだろう。そうなると、地域でボランティアをお願いしても、気軽には受けてもらえない時代になっていくことは確実である。また最近、ボランティアにおいても有償、無償の話をよく聞くようになったが有償にすれば即座に担い手の問題が解決するわけでもない。今後はそういうところを整理しないといけないと思うし、私も地域の仲間と、そして市の方々と今後も議論させていただきたいと考えている。新しい取り組みや改革だけがよいわけではなく、これまでの蓄積をいかに今後につないでいくかということが大事だと思う。

【委員】 医師会からは、3つの策定委員会に役員を参画させていただいたが、市の方針・施策を実務的に進め、医師会としての自覚を持って市の施策とともに推進していく役割を実感することができた。今後の事業につなげていきたい。

【委員長】 私からは3点申し上げたい。

1点目は、行政が目指すべき地域のイメージをできるだけ具体的に、地域をとりまく様々な課題に対してどのように対応していくかを明確にさせていただきたい。

2点目は、地域で活動をしている方が相当に疲弊している現状がある。世代交代等含めた人材確保・育成に早急に取り組んでいただきたい。

3点目は、武蔵野らしさを前面に出して施策を実施していただきたい。私は長い間、武蔵野市の健康福祉総合計画・地域福祉計画の策定に携わったが、武蔵野市はネットワークがよいことが強みである。また、市政に対する関心や意識の高い市民が多い。今回策定した計画も、現在の地域の状況に応じて適切に実行していただきたい。

【事務局】 平成29年7月の第1回委員会以降、委員の方々には熱心な議論を重ねていただいた。今回の健康福祉総合計画では、各個別計画を重視・尊重しながらも横断的に連携すべきものや共通課題等をまとめることができた。このポイントは3点あると考えている。

1点目は、資料3、56頁において「新しい介護・福祉サービスの整備」について課題の整理ができたことである。実現には人材が必要であることが確認でき、サービスと人材とを一体的に整理することができた。

2点目は、資料3、152頁以降において武蔵野市における健康福祉分野の協議会・会議体について一覧化したことで、総合目標や健康福祉分野の目指すべき方向性、全体像の整理ができたことである。

3点目は、今回の計画策定において「議論よりも実践」「実践は地域にこそある」という考え方を改めて実感できたことである。国は地域共生社会や多世代交流などの新しい概念を打ち出したが、武蔵野市では国が制度化する前に、テンミリオンハウス事業やいきい

きサロン事業などの市独自の住民参加型サービスを通じて既に共生社会サービスや多世代交流を実施してきた。このように、武蔵野市には時代の先を見通して実践する力があり、委員長のご発言にあった武蔵野らしさとはこのことを指すのだろうと考えている。

委員の方々には、それぞれの専門的見地から様々なご意見をいただくことができ、今回の冊子にまとめることができた。今後はこの計画をいかに市民に浸透させ、実践をさらに豊富にできるか。これが行政側に与えられた課題だと認識している。この1年間にわたる策定にご協力いただいたことに心から感謝したい。

5 閉会